

立命館大学技術士会 第13回総会

議 案 書

R

令和4年(2022年) 6月25日

(一社)中央電気倶楽部 215号室

13:00 ~ 14:00

立命館大学技術士会第13回総会議案

<第1号議案>

立命館大学技術士会第12期(2021年4月1日～2022年3月31日)事業報告 …… 1

<第2号議案>

立命館大学技術士会第12期決算報告および監査報告 …………… 3

<第3号議案>

第13期事業計画(案)および予算(案) …………… 5

<参考>

第13期役員人事:敬称略(2021年度および2022年度) …………… 8

＜第1号議案＞

立命館大学技術士会第12期(2021年4月1日～2022年3月31日)事業報告

(1) 会員拡大と組織強化

当会の基盤強化として、本会員および準会員並びに賛助会員の増員について役員幹事に働きかけ、1期あたり5名の増員を目指した。結果、本会員14名、準会員1名の方に入会していただき、第12期1月末時点で、本会員157名、特別会員1名、準会員4名、賛助会員5社の総会員数は167となった。

今後も引き続き、第二次試験合格者の情報入手および建設会並びに建立会等のOB会に対し当会の活動情報を発信して会員拡大に努める必要がある。

また、組織の体制に関し第10期から副会長4名それぞれに①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録の総括責任者を担ってもらい、活動・運用しているところであるが、その状況も徐々に機能してきた。

また、第9期から加入した「大学技術士会連絡協議会」であるが、令和3年度の総会は新型コロナの感染状況を見据え、中止された。

(2) 技術士試験受験への支援

令和3年度技術士第二次試験受験支援は、2021年3月6日に1回目の受験ガイダンスを行った。その後の受験ガイダンス②(4月3日)も実施したが、受験講習会(5月8日、6月12日)の2回は、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、参加関係者の安全確保に鑑み中止とした。そのため、受講者5名へのその後の指導は、担当講師を専任してメールでの方法に切り替えて対応した。結果、当初受講者からの筆記試験合格者は出なかったが、口頭模擬試験受講希望者1名に対し11月13日に指導を行い、翌年3月11日、合格に導くことが出来た。なお、その合格者の部門は、建設部門(道路)であった。

R4年度の技術士第二次試験受験支援は、2022年3月12日に1回目の受験ガイダンスを行い受講者(申込者6名の内、2名参加)に対し、技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)等の説明後、受験申込書、業務経歴、詳述論文等について個別指導した。

(3) 立命館大学への支援

大学の環境・都市系学科の授業を活用するなどして、後進者である学生達に各種支援を行った。

① 令和3年度から環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に対し、幹事等2名を派遣し授業担当講師として対応している。このように年々当会への相談事や講師派遣依頼が増えて、その存在価値は高まってきている。

② 6月5日、BKCにて環境都市工学科1回生を対象に『めざせ！技術士』と題し、4名の幹事がWEBにて授業を行った。最初に技術士試験制度について説明した後、公務員、建設コンサルタント、ゼネコン技術士のそれぞれの立場で、職務と役割等について講義した。講義資料は、初めての試みとして3択のクイズ形式を取り入れ、学生たちの関心を引き寄せられるよう心掛けた。1回生の学生達にとって技術者としての倫理観の醸成やキャリアアップの一助になったと思われる。

③ 環境都市工学科3回生を対象にした『環境管理調査実習Ⅱ』について、令和2年度は大学担当教授と院生で対応されたが、令和3年度は当会の幹事等が講師となり、『第12回立命技術士懇談会』と題して、7月15日に対面授業で開催された。なお、当授業の様子は、担当教授の惣田訓先生から当会の第5回会報誌(令和3年11月発行)において、報告していただいた。

(4) 技術講演会および親睦会

会員相互の資質向上の一環として、6月26日の総会時にWEB併用にて二つの特別講演を行った。講演一つ目は(一社)エンジニアサポートセンター代表理事、日本技術士会近畿本部副本部長の河野千代氏に、「技術士資格の理想と現実」と題し、日本技術士会理事就任時の活動から見えた厳しい現実と、それに纏わる活動状況や最新情報についてご講演いただいた。二つ目の講演は、本学理工学部環境都市工学科の小林泰三教授に、「宇宙探査と地盤工学」と題し、宇宙建設工学の創成に向けた月・惑星の地質学、さらには将来の基地建設に向けた月・惑星の地盤工学に関連する研究についてご講演いただいた。

なお、総会および講演は、中央電気倶楽部にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したうえで執り行ったが、飲食を伴う親睦会は中止とした。

(5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上

会員相互の親睦のため、11月13日に交流・懇親会を中央電気倶楽部にて行った。その折、来賓として、本学理工学部環境都市工学科の樋口教授、橋本教授をお招きし、当会および参加者との交流が図られた。なお、交流・懇親会参加費の一部を、本学の”未来人財育成基金”に寄付した。

また毎年、会員の日頃の科学技術研究成果や技術報告をはじめ、自由闊達なご意見や近況報告について投稿をお願いしている会報誌であるが、第5号を2021年11月、ホームページ上で発行した。

投稿内容は、巻頭言、特別寄稿、「環境都市工学科のキャリアデザイン教育:第12回立命技術士懇談会の報告」(本学惣田教授)、自由テーマ6編、技術レポート1編であった。今後も引き続き、会員相互のコミュニケーションツールとして活用していただくことを希望する。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

平成26年3月から、① 技術士受験支援基金、② 各種講演会・交流企画基金、③ 大学支援・共同企画基金を設け、将来の各事業企画の有効な実施が図れるように備えている。

本基金の趣旨は上記に記すところであるが、過去に阪神・淡路大震災発生後、あらゆる組織の活動が長期にわたり機能停止に追い込まれた苦い経験等を踏まえ、更には来る南海トラフ地震をはじめ、この度の新型コロナウイルス感染症等の疫病を含む複合災害等を見据え、有事の折には本基金が会の活動に有効に活用できるものとする。この第12期は当初の予算計画の通り、広範かつ柔軟な活動基金として5万円の積み立てを行った。

<第2号議案>

立命館大学技術士会第12期決算報告および監査報告
(2021年4月1日～2022年3月31日)

項 目	予 算	決 算	摘 要
(1) 収入			
①会費等収入	200,000	199,652	個人会費
	60,000	42,000	賛助会費
	130,000	215,834	その他(お祝い+会費寄付等)
②講習会収入	15,000	5,000	講習会受講参加費
③未来人財育成基金	30,000	-	
④その他	2,783	9,747	交流・懇親会残金(未来人財育英基金含まず)
今期計		472,233	
⑤前期繰越金	62,217	62,217	前期残高合計
合計	500,000	534,450	
(2) 支出			
①会員技術研修等支援活動費	150,000	117,324	
②大学教育支援活動費	20,000	7,500	
③技術士試験受験支援活動費	100,000	66,290	支援活動費、講習会場費
④その他活動費	80,000	54,520	未来人財育成基金(¥16,000)、広告費等
⑤通信事務費	60,000	42,520	
⑥会費振込手数料	12,000	11,125	
上記計	422,000	299,279	
⑦大学支援・共同企画基金	50,000	50,000	3活動基金
⑧予備費	28,000	-	
今期計	500,000	349,279	
	収入額	534,450	
	支出額	349,279	
収支合計＝		185,171	・・・次期繰り越し金額
監 査 報 告			
立命館大学技術士会第12期会計内容につき、通帳、金銭出納簿、領収証および入金書類を監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。			
令和 4年 4月 25日		立命館大学技術士会	
		会計監事	山下 雅巳
		会計監事	兼塚 卓也

積立基金会計（ゆうちょ銀行）

貯金名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年利率	%
定額貯金① 受験支援基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	H27-03-30	¥150,000	H27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	H28-03-29	¥100,000	H28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	H29-03-30	¥100,000	H29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	R3-03-30	¥100,000	R3-09-30	0.002	
定額貯金⑦ 3活動基金	R4-03-28	¥50,000	R4-09-28	0.002	
合 計		¥800,000			

* 定額貯金の利率は、3年以上預けた場合の年利率である。
また満期時は、10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

＜第3号議案＞

第13期事業計画(案)および予算(案)

＜事業計画(案)＞

(1) 会員拡大と組織強化

当会本会員の高齢化が進んでいるなか、組織の基盤強化と安定化を図るために、本会員は元より準会員、並びに賛助会員についてその拡大を図ることは重要である。引き続き、当会の活動趣旨に賛同してくださる卒業生等への積極的な働きかけを行い、支援を得たいと考える。

具体的には、大学建設会事務所が建設会報の郵送時において、当会が作成する『建設会会員の技術士資格に関するアンケート』を同封させてもらい、建設会会員の技術士資格保有の実態およびJABEE履修者(修習技術者)の技術士補登録状況等を調査する。その結果、技術士第二次試験の受講希望者や活動趣旨に賛同していただいた入会希望者に対し、情報の発信を行う。

また、第10期から事務局の役割を4つ(①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録)に区分し、4人の副会長を総括責任者に配置して幹事をそれぞれに配属して円滑な活動を目指してきた。本体制で3年が経過し、事務局の活動も以前に比べて有効に機能し、相互の連携も向上してきた。今期もその体制を維持し、役員幹事の更なる意思疎通を図っていくこととする。また、将来を見据え第14期以降の役員幹事の人選を含む体制等についても、今期に検討を行う。

なお、「大学技術士会連絡協議会」については、情報交換や共有を図るために継続して加入することとし、昨年度中止された年次総会が開催されれば参加する予定である。

(2) 技術士試験受験への支援

既に開催した第1回受験ガイダンス①に続き、4月3日に2回目の受験ガイダンス②を実施した。その後、5月7日および6月11日の受験講習会は、新型コロナ感染防止対策を万全に講じたうえで実施する予定である。今年度の第二次試験日は、7月17日、18日に予定されており、その合格者の発表は、令和4年11月とのことである。そのため模擬口頭試験は、中央電気倶楽部にて11月12日に予定している。

(3) 立命館大学への支援

昨年に引き続き、環境都市工学科1回生を対象に5月30日、BKCにて『めざせ！技術士』と題し、技術士資格の説明会等を実施する。講師は当会幹事や会員技術士が、公務員、建設コンサルタント、ゼネコン、それぞれの立場で担う予定である。1回生には技術士が日本の科学技術における最高位の国家資格であることを学ばせ、在学時に第一次試験への挑戦を促すこととする。

また、環境都市工学科3回生に対し、7月21日『第13回立命技術士懇談会』を行い、当会の幹事が各業界の技術士の職務と役割について、対面授業およびZoom配信併用のハイブリッド講義で実施する予定である。なお、両講義とも、(公社)日本技術士会近畿本部および立命館大学建設会の後援のもと実施することが決まっている。

さらに昨年度から、環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に幹事等2名、授業担当講師を派遣しているところであるが、今年度も同様に実施される旨、シラバスに組み込まれている。

(4) 技術講演会および親睦会

総会時には毎年、本学の先生および異分野を含む外部の講師を招いて特別講演を企画するが、今年度も中央電気倶楽部にてリアルおよびWEB併用による2講演を行い、昨年度はできなかった親睦会も、新型コロナ感染防止対策を徹底したうえで執り行う予定である。

また、毎年11月に実施している交流・懇親会は、中央電気倶楽部にて11月12日を予定しているが、新型コロナ感染状況を見据えつつ、会員相互の幅広い交流を念頭に企画・展開していく。

(5) 会員相互の懇親と技術レベルの向上

会員相互のコミュニケーションツールとしている会報誌(第6号)を、今年も11月頃の発行を予定し、当会ホームページにて、7月中旬にその投稿を広く募集する。また、2015年7月に出版した電子書籍『土木、この素敵な世界』に続く第二弾を出版するため、新たに昨年3月に出版プロジェクト委員会を立ち上げ活動してきた。今年の1月『土木技術者が語る未来 ～今、伝えておきたい技術者の心～』を電子書籍(Amazon Kindle)にて発刊することができた。16人の卒業生が、未来に伝えたい技術者の心を言葉にしているので、是非とも一読していただきたい。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

本基金は、受験支援、講演交流、大学支援をはじめ、複合災害などの有事の折に、会の活動基金として有効に活用できるよう積み立てている。会員の高齢化が進み、かつ多くの新規入会者が見込めない現状において、仮に2年～3年間、会費納入が見込めない状況下でも、当会の機能が停止することなく活動できるようにするため、基金の充実を図ることは重要であると考えている。

<予 算(案)>

① 収 入

(1) 会費等	本・特別・準会員	200,000	
	賛助会員	50,000	
	その他(お祝い+寄付等)	130,000	
(2) 講習会等		10,000	
(3) 未来人財育成基金		20,000	交流・懇親会参加費より
(4) その他		4,829	
(5) 前期繰越金		185,171	
合 計		600,000	

② 支 出

(1) 会員技術研修等支援活動費	150,000
(2) 大学教育支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)	10,000
(3) 技術士試験受験支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)	100,000
(4) その他活動費(未来人財育成基金、広告費等)	50,000
(5) 通信事務費	100,000
(6) 会費振込手数料	20,000
上記 計	430,000
(7) 大学支援・共同企画基金(3活動基金)	100,000
(8) 予備費	70,000
合 計	600,000

積 立 基 金 会 計 (ゆうちょ銀行)

預 金 名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利 率	%
定額貯金① 受験支援基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	27-03-30	¥150,000	27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	28-03-29	¥100,000	28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	29-03-30	¥100,000	29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	3-03-30	¥100,000	3-09-30	0.002	
定額貯金⑦ 3活動基金	4-03-28	¥50,000	4-09-28	0.002	
定額貯金⑧ 3活動基金	5-03-27	¥100,000	5-09-27	0.002	
合 計		¥900,000			

*定額貯金⑧が、第13期の基金予定額である。

*定額貯金の利率は、3年以上預けた場合の年利率である。

また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

＜参考＞

第13期役員人事：敬称略(2021年度および2022年度)

役職名	氏 名 (敬称略)	卒 業 年	部 門
会長 (1名)	土屋 光弘 留任	S 58	建 設
副会長 (6名程度)	楠本 博 留任	S 54	建 設
	太田 和夫 留任	H 05	建 設
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道、建 設
	橋口 正悟 留任	H 15院	建 設
幹事 (30名以内)	土屋 光弘 留任	S 58	建 設
	西村 敏 留任	S 54	上下水道
	楠本 博 留任	S 54	建 設
	日室 伸一 留任	S 54	上下水道、建 設
	沢田 道彦 退任	S 54	建 設
	吉田 順一郎 留任	S 55	建 設
	久後 雅治 留任	S 57	建 設
	野村 嘉樹 留任	S 60	上下水道
	中井 稔 留任	H 02	建 設
	星野 和之 留任	H 03	建 設
	青山 裕之 留任	H 05	建 設
	太田 和夫 留任	H 05	建 設
	深津 真彦 留任	H 07院	建 設
	今井 豊 留任	H 08	上下水道
	北岸 真佳 留任	H 12	上下水道
	春田 健作 留任	H 12院	建 設
	菊池 博之 留任	H 12院	機 械
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道、建 設
	長谷川 真也 留任	H 13	農 業、建 設
	北口 和雅 留任	H 13	上下水道
	玉木 政人 留任	H 13	建 設
	橋口 正悟 留任	H 15院	建 設
	人羅 真一 留任	H 16	建 設
	服部 亘啓 留任	H 17院	建 設
幹事長	西村 敏 留任	S 54	上下水道
監事 (2名)	山下 雅巳 留任	S 53	建 設
	兼塚 卓也 留任	S 57	建 設

幹事および監事、以外の役員

役職名	氏 名 (敬称略)	摘 要
顧問	山 田 淳 田 中 伊 三 雄 糸田川 廣 志	
相談役	奥 村 一 大 同 淳 之 岸 田 順 三 渡 邊 郁 夫 大 森 秀 高	